

参加選手は二千三百人

国体の夏季大会は、九月二十四日から四日間、水泳、ボートの二種目に、二千三百人の選手を迎えて開幕されます。水泳のうち競泳と飛込み、水球の各優勝戦は、県営熊本城プールで、水球は準優勝戦まで、熊本高等学校プールで、ボートは荒瀬ダム特設コースで繰りひろげられます。

夏季大会は、種目の数、選手の数ともに秋季大会とは比較になりませんが、国体の緒戦ともいわれ、その成否は直ちに、秋季大会に大きく反映し、その意義も大きいのです。

プロローグ

開会式

両種目を併せて、夏季大会の開会式は、熊本城プールで行われます。プールサイドの広さの関係で参加各県の開会式への参加者は代表十名に制限されます。水泳、ボート夫々の競技服装での入場パレードで華やかに式典が始ります。

当日は、朝七時に一般入場者のための門が開かれ、一般の方は八時までに、招待者の方も八時二十分までに入場を完了していただきます。

一方、参加選手も、八時四十分、入場行進のための集合を完了して、式典の開始を待ちます。

式典開始の直前、夏季大会御成りの高松宮様を会場に迎え、八時五十分、城内

アナウンスにより、式典の開始が告げられます。この場内アナウンスは、過去十回四回の慣例を破って、熊本国体で初めて、女性アナウンスが登場しますが、全国からの参加選手の耳を驚かせ、又こころよい雰囲気をつくり出すことでしよう。

ファンファーレも

高らかに

やがて楽団の演奏がはじまり、選手団の入場行進が始まります。選手団は、選手代表の宣誓者を先頭に、前年度優勝チームの優勝旗返還団、続いて北海道、青森県から順次南に移り、地元熊本県を最後尾として堂々の入場が行われます。

選手団が、プールサイドに整列を完了すると、寺本知事によつて、夏季大会の開会が宣言せられ、ファンファーレが高らかに初秋の空に鳴りひびいて、いよ

いよ夏季大会の幕が切つて落されるので

ついで、君が代斉唱のうちに、国旗が掲揚され、大会の歌、若い力斉唱のうちに、大会旗掲揚、更に、県民の歌演奏のうちに熊本県旗、並びに各都道府県旗、水泳連盟旗、漕艇協会旗が掲揚せられ、同時に千三百五十個の風船が空に放たれます。

掲揚が終わると、津島大会々長（日本体育協会会長）、文部大臣等の挨拶があり、さらに、高松宮殿下よりお言葉をいただきます。

ついで、選手代表の力強い宣誓が終ると五百羽のハトが放たれ、新装の熊本城をバックに中空高く舞上ります。

最後に、国体を機会につくられた熊本県民の歌の合唱をもつて、式典の行事が終ります。

式典終了と同時に、この機会を利用して、八月に行われた全日本中学水泳通信競技大会の優勝者に対する表彰が行われ、選手団の退場に移ります。

開会式が終了すると、直ちに第一日目の競技が開始されます。水泳が二十四日から四日間、漕艇が二十五日から三日間です。

競技開始

期待される選手団

夏季大会の水泳は二十四日から始まりですが、オリンピック水泳選手の羽田着が二十二日、しかも各選手共、恰度、都道府県予選大会に出場できなかったため

とを前もつておことわりしておきましょう。

今年のオリムピック出場選手の数を見ても、二十六人中、六人の本県出身選手を数えているだけに、力強い伝統にさへえられ、かなりの活躍を見せてくれるものと思われま

栄光めざして

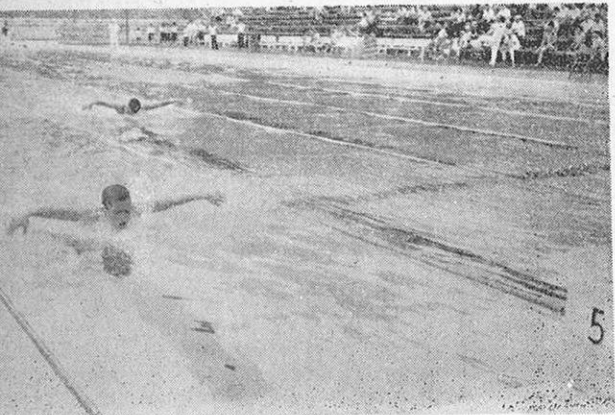
必死のトレーニング

しかし、昨年の国体で第三位を獲得した水泳も、昨年の国体終了の時の状況では、卒業して行く人、水泳界の推移等考えた時辛直に云つて、来年はとも三位どころか五位も困難だと思われています。しかしプールサイドのコーチ連は、オーバーに身をくぐるみ、選手は、泳いで風呂、温まつてはプールへの、熊本独特のトレーニング、厳寒の正月休み、春まだ浅い春休み、すべてを返上しての訓練の効果が、ようやく実を結ぼうとしているのです。

その第一は、水球の済々費チーム、八月の全国高校大会に宿敵鴨洲高校（京都）を破つて、堂々の優勝を遂げております。国体においても必ずや、期待にそつてくれるものと思ひます。

七月の全日本選手権以来四十日間、大プールに合宿してひたすらトレーニングを積み必しもつぶろろいとはいえないチームをこゝまでに仕上げた努力は大いではないと思われま

「勝ち負けはともかく、負けたとい



5

でも、よくやつたと云われるだけの、最善の努力だけは積んでおきたい」と監督の平田先生、矢賀コーチは言葉少く語つていた。

明るい競泳の予想

競泳のトップは、高校、青年によつて開始されます。全国高校大会に、高校新記録で優勝したバタフライの佐藤君（八代高）を中心として、自由型の田代君（八代東）、沢田君（八代商業）等によつて、八〇〇リレー、四〇〇メドレーリレーにも入賞が見込まれています。

青年の部は、昨年は第一位の部門、昨年のメンバーから、若干の変動はありますが、自由型（一〇〇、四〇〇）の園田（熊工・B）、佐藤兄（八代）、田中

（天水）、バック園田、平泳加根魯でメドレーリレーを加えて計算すると優勝必ずしも夢ではないかも知れません。教員の部では、自由型、芥川（市立高）バック、岡崎（人吉一中）バタフライ、吉村（日奈久小）平泳、平林（深田小）等夫々入勝圏内にあり、メドレーリレーを加えて、天皇杯の候補にあげられるでしょう。

女子は、熊本は不作、今年の全国大会で初めて、自由型に六嘉嬢（熊商）の入賞を見ましたが、女子は高校、一般同一ゾーンのため、果してどの程度の活躍が見込まれるか判断はむづかしいようです。

実業団では、これという実業団チームのない熊本は、全く見込みはないようです。

水球と飛込みは

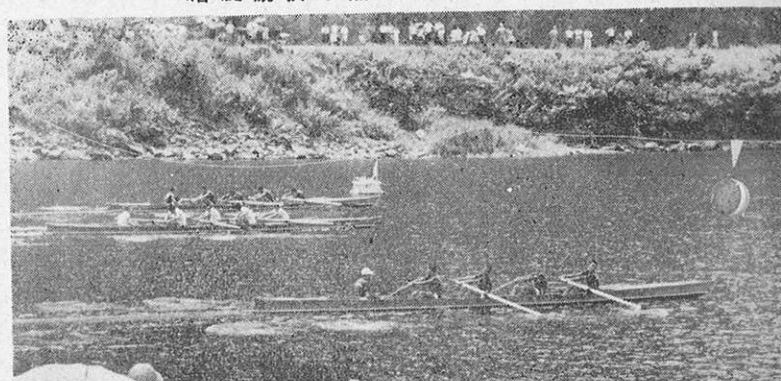
飛込は、角田嬢（市立OG、日体大）高飛込みに入賞のチャンスが望めます。さらに水球の優勝、青年の上位、教員、高校の入賞を見込んで、総合五位までには入るだろうという予想です。

この他、他県からの出場ですが、本県出身者で活躍が予想される主な選手は一躍有名になつた田中嬢（筑紫高）を初め、山本嬢（平泳、八代三中）筑紫高、松永嬢（背泳、六嘉中）天理高、両嬢ともに八月全国高校大会の優勝者ですが、これらの活躍が挙げられます。

<競技に見るスタンドいっぱい観衆……県体から>



<漕艇競技も熱戦が予想される>



漕艇にも実力発揮

旧五高時代の艇庫が、今なお、画図湖に姿だけは残っていますが、戦後中断され、国体を機会に昨年の春、あたらしく協会の発足を見ました。それだけに技術、練習量共に、十分とはいえませんが意気込みでこれをカバーしているようです。

昨年の東京国体で、発足してまだ日が浅い一般男子クルー（百済来）が第二次敗者復活戦で優勝、第三次敗復活戦まで進出して、自信を深めてから各クルーの練習も本格化してきました。百済来、上松